



マルジャエ・タグリード、奇跡を起こす

黒田 賢治 (くろだ けんじ)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程
日本学術振興会特別研究員

「法力」の持ち主

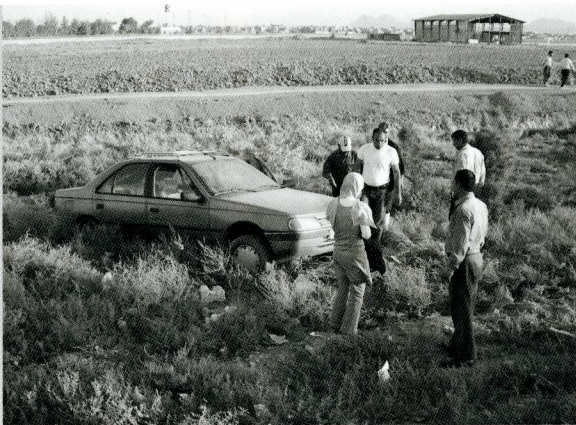
僕が足しげく通うイランの古都ゴムは、現在ではシーア派の総本山のひとつであり、マルジャエ・タグリード（法学権威）がこぞつて事務所を構えている。法学権威とは、シーア派イスラーム法学の最高権威であり、老成し、卓越した法学者である。イランは、国民の約九割がイスラームの一派シーア派の信徒である。シーア派にも、多数派であるスンナ派同様に、神学や法学といった学問がある。神学が信仰者の内面の規則である一方、法学は外面の規則であり、例えば、毎日の礼拝の前に、どうお清めすればいいかといった日常生活にかかわる側面が多い。そのため法学権威は信徒向けに信仰生活の手引書を著している。大抵の問題はそれを読めば解決するが、解決できないときには、信徒は法学権威の事務所に相談する。

事務所は特有の構えもなく、よくある町の建物であり、僕は探すのにずいぶん骨を折ったものだ。しかし信徒のあいだでは、どこが事務所かは周知の事実である。訪問者に振舞われる紅茶をご馳走になりながら、そこで一日を過ごしていると、悩みを抱えた信徒が頻繁に訪れ、清々しい顔で帰っていく。相談は電話、書面、ウェブサイトを通じてもおこなわれる。通常スタンプが先述の手引書に沿って答えるが、難題の場合には、法学権威自らが

答える。このように法学権威は法学の卓越した専門家であるが、それに加えて「法力」の持ち主との考えもある。

交通事故に遭うが

法学の知識は、神の啓示と先達による果てしない努力の上に成り立っている。それを継承・発展させる彼らに、どうすればそれほどの知識をもてるのか、という純粋な尊崇の念を、信徒は抱いている。と



法力のおかげ？

きにはそれが極限まで高められ、彼らに法力があると考える信徒もいる。法力はつまり日本語でいう「御利益」のようなもので、病气や怪我を治癒するなどさまざまな奇跡を起こすと信じられており、奇跡譚を集めた本まで出版されている。書店で本を手にしたときには、まさか僕自身が法学権威の法力を体験するとは夢にも思わなかった。

ある日ゴムへの帰り道、僕の乗った乗り合いタクシーは猛スピードで町を目指していた。突然、「バンッ」という破裂音とともに横滑りに回転し、道路脇の路肩を踏み切り台代わりに車ごと飛んだかと思うと、次の瞬間には見事に着地していた。あまりのことではあるが、失っていたが、我に返って自分の安全を確認して、ほかの乗客を確認したが、誰も怪我すらしていない。車外に出るとさらに驚いた。車もなんとほぼ無傷だ。

一同暫く唖然としていたが、助手席に座っていた女性の号泣をきっかけに、何故助かったのかと話が始まった。思い当たる節を話し合ったが、納得する答えはなかった。そのとき、僕が何気なくその日法学権威と面会したと言った瞬間、その場にいた全員が、「ああ、そうか。彼の法力のおかげだ」と納得した。これが法学権威の法力かと実感するとともに、僕の研究がみんなの役に立って本当によかったと思えた。